

研究会

「むらを住み継ぐカタチ#01:丹波市青垣」

過疎地域においては限界集落や消滅集落という言葉が一般に普及し、深刻な状況に立たされている。これは何も農山漁村集落に限ったことではなく、地方小都市の中心市街地などの衰退も顕著になってきており、国土保全を考えるうえで、これらの集住地の持続は重要な課題であり、かつ対応方策を考えることが急務となっている。

集落居住小委員会では研究テーマに「むらを住み継ぐカタチ」を掲げ、二地域居住や週末居住など現在の住まいや動的な居住の様相とともに、家屋・農地・山林・墓などの財産をいかに継承していくかとの関係性から、集住地を継承するための現代的な方法に資する知恵や工夫を抽出することを目指している。

今回は、関西大学が丹波市青垣で活動してきた、かかわり続ける「定住のカタチ」について、中心に担ってきた出町慎研究員の人生観などを交えつつ意見交換を行いたい。

共 催 : 日本建築学会 農村計画委員会 集落居住小委員会
日本建築学会 近畿支部 農村計画部会

日 時 : 2012年12月14日(金) 18:30~20:30

会 場 : 関西大学佐治スタジオ (兵庫県丹波市青垣町佐治 683)

【プログラム】

- | | | |
|--------|-------------------------------|------------------------|
| 18:30- | 主旨説明 | : 山崎義人 (小委員会主査/兵庫県立大学) |
| 18:35- | 話題提供「“定住のカタチ” から “住み継ぐ” カタチへ」 | : 出町 慎 (関西大学) |
| 19:15- | ブレイク&コミュニケーション | |
| 19:45- | ディスカッション「いかにむらを住み継いでいくのか？」 | |
| 20:30 | 閉会 | |
-

定 員 : 30名 (当日会場先着順)

参加費 : 会員 1,000円、会員外 1,500円、学生 500円
*当日会場にてお支払いください。

問合せ : 山崎義人 (兵庫県立大学) yyamazaki@hitohaku.jp